

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人目白学園

(2) 大学名

目白大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒161-8539
東京都新宿区中落合4-31-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オザキ ハルキ) 尾崎 春樹 (平成27年1月)		
学長	(サトウ グンエイ) 佐藤 郡衛 (平成26年4月)	(サワザキ タツオ) 沢崎 達夫 (平成30年4月)	佐藤郡衛退職に伴い、平成30年4月1日、沢崎達夫前副学長が新学長に就任(30)
学部長	(ミカミ ヨシカズ) 三上 義一 (平成30年4月)		
学科長等	(ミカミ ヨシカズ) 三上 義一 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
メディア学部 メディア学科 学士（メディア学）	社会学・社会福祉学関係	4年	140人	— 年次人	560人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	140 (—) [—]	—	140 (—) [—]	—	() []	() []	() []	() []	() []	() []	1.03 倍	— 倍	
志願者数	720 (—) [9]	— (—) [—]	1,235 (—) [15]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
受験者数	701 (—) [9]	— (—) [—]	1,192 (—) [15]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
合格者数	315 (—) [2]	— (—) [—]	278 (—) [4]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
B 入学者数	148 (—) [2]	— (—) [—]	142 (—) [4]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
入学定員超過率 B/A	1.05		1.01										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	148 [2] (-)	— [—] (-)	142 [4] (-)	— [—] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		142 [2] (-)	— [—] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	148 [2] (-)		284 [6] (-)		[] ()		[] ()		[] ()		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	148人	0人	平成30年度	0人	0人	
令和元年度	284人	6人	平成30年度	6人	0人	就学意欲の低下(2人)、他の教育機関への入学(1人) 健康上の理由(2人)、その他(1人)
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
合計		6人		6人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成27年度の退学者数(a)}}{\text{平成27年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{148} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{284} = \boxed{2.11} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<メディア学部 メディア学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
初年次セミナー	フレッシュマンセミナー	1前	1			5	4	3	2		
	ベーシックセミナー	1後	1			5	4	3	2		
分野横断科目	大学生活と学問	1前		2							兼1
	知の探究法	1後		2		1					兼4
	「目白大学」を知る	1前		2		1	2				兼7
	科学的なものの見方・考え方	1後		2							兼4
学際科目	雑穀文化を学ぶ	2後		2							兼4
	感性を磨く芸術論	2後		2							兼3
	知の対象としての恋愛	2後		2			1				兼5
	人間と遊び	2後		2							兼6
	社会生活のデザイン	2後		2							兼3
	子供とメディア	2後		2		2	1				
	「観光」で読み解く現代社会	2後		2							兼5
	お金とつきあう	2後		2							兼3
	社会の中のことば	2後		2							兼2
	日本語再発見	2後		2							兼6
コトバの実験室	2後		2							兼2	
異分野入門科目	心理学フロンティア	2前		2							兼6
	ボランティア入門	2前		2							兼9
	保育と乳幼児精神保健	2前		2							兼3
	現代教育入門	2前		2							兼4
	ビジネス偉人伝～先達に学ぶ生きるための智慧	2前		2							兼4
	ことばの「しくみ」と「はたらき」	2前		2							兼3
	東アジアの言語と文化	2前		2							兼2
古典に学ぶ	2前		2							兼4	
グローバル課題探求科目	グローバルな視点で学ぶ社会と人間	3前		2							兼5
	サステイナブル社会を考える	3前		2							兼4
	食と農から考える地域と世界	3後		2							兼3

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
初年次セミナー	フレッシュマンセミナー	1前	1			5	4	3	2		
	ベーシックセミナー	1後	1			5	4	3	2		
分野横断科目	大学生活と学問	1前		2							兼14
	知の探究法	1前		2		1					兼4
	「目白大学」を知る	1前		2		1	2				兼8
	科学的なものの見方・考え方	1前		2							兼4
学際科目	雑穀文化を学ぶ	2後		2							兼2
	感性を磨く芸術論	2後		2							兼3
	知の対象としての恋愛	2後		2			1				兼5
	人間と遊び	2後		2							兼6
	社会生活のデザイン	2後		2							兼3
	子供とメディア	2後		2		2	1				
	「観光」で読み解く現代社会	2後		2							兼5
	お金とつきあう	2後		2							兼3
	社会の中のことば	2後		2							兼2
	日本語再発見	2後		2							兼6
コトバの実験室	2後		2							兼2	
異分野入門科目	心理学フロンティア	2前		2							兼7
	ボランティア入門	2前		2							兼9
	保育と乳幼児精神保健	2前		2							兼3
	現代教育入門	2前		2							兼6
	ビジネス偉人伝～先達に学ぶ生きるための智慧	2前		2							兼4
	ことばの「しくみ」と「はたらき」	2前		2							兼2
	東アジアの言語と文化	2前		2							兼2
古典に学ぶ	2前		2							兼1	
グローバル課題探求科目	グローバルな視点で学ぶ社会と人間	3前		2							兼5
	サステイナブル社会を考える	3前		2							兼4
	食と農から考える地域と世界	3後		2							兼3

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格関連科目	世界の今を学ぼう	3後		2								兼2
	日本国憲法	1前・後		2								兼2
	遺跡を科学する(考古学)	1後		2								兼1
	芸術と人間(芸術論)	1後		2								兼1
	政治のしくみ(政治学)	1前		2								兼1
	アジアの歴史と文化(東洋史)	1後		2								兼1
	西洋の歴史と文化(西洋史)	1後		2								兼1
	日本の歴史(日本史)	1前		2								兼1
	環境物理学	1後		2								兼1
	自然地理学概説	1後		2								兼1
	やさしい観光開発(観光開発論)	1後		2								兼1
	社会学	1前		2								兼1
	法学	1前		2								兼1
	社会学概論	1前		2								兼1
	漢文学の世界(漢文学論)	1前		2								兼1
現代文学	1前		2								兼1	
倫理	1前		2								兼1	
国語	日本語読解演習 I	1前	1									兼4
	日本語読解演習 II	1後	1									兼4
	日本語表現演習 I	2前	1									兼4
	日本語表現演習 II	2後	1									兼4
	専門レポート基礎演習	2後		1								兼3
共通科目	英語基礎(Fundamentals of English) I	1前	1									兼4
	英語基礎(Fundamentals of English) II	1後	1									兼4
	総合英語(Integrated English) I	1前	1									兼4
	総合英語(Integrated English) II	2前	1									兼4
	専門基礎英語(Basic English for Special Fields)	2後	1									兼3
	English Test Strategies	1前		1								兼3
	English Using CALL	1後		1								兼3
	Advanced Reading	2前		1								兼1
	Business English	2後		1								兼2

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格関連科目	世界の今を学ぼう	3後		2								兼2
	日本国憲法	1後		2								兼1
	遺跡を科学する(考古学)	1後		2								兼1
	芸術と人間(芸術論)	1後		2								兼1
	政治のしくみ(政治学)	1前		2								兼1
	アジアの歴史と文化(東洋史)	1後		2								兼1
	西洋の歴史と文化(西洋史)	1後		2								兼1
	日本の歴史(日本史)	1前・後		2								兼2
	環境物理学	1後		2								兼1
	自然地理学概説	1後		2								兼1
	やさしい観光開発(観光開発論)	1後		2								兼1
	社会学	1前		2								兼1
	法学	1前・後		2								兼1
	社会学概論	1前・2前		2								兼2
	漢文学の世界(漢文学論)	1前		2								兼1
現代文学	1前		2								兼1	
倫理	1前		2								兼1	
国語	日本語読解演習 I	1前	1									兼4
	日本語読解演習 II	1後	1									兼4
	日本語表現演習 I	2前	1									兼4
	日本語表現演習 II	2後	1									兼4
	専門レポート基礎演習	2後		1								兼2
共通科目	英語基礎(Fundamentals of English) I	1後	1									兼4
	英語基礎(Fundamentals of English) II	1後	1									兼4
	総合英語(Integrated English) I	1前	1									兼4
	総合英語(Integrated English) II	2後	1									兼4
	専門基礎英語(Basic English for Special Fields)	2前	1									兼4
	English Test Strategies	1前・後		1								兼5
	English Using CALL	1前・後		1								兼2
	Advanced Reading	2前		1								兼1
	Business English	2前・後		1								兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語	Communication in the Media	2前		1								兼1
	Communicative Listening and Writing	2後		1								兼1
	Dynamics of English Sound	2前		1								兼2
	Film English	2後		1								兼1
	Practical English Grammar	2前		1								兼1
	中国語基礎 I	1前		1								兼2
	中国語基礎 II	1後		1								兼2
	中国語基礎 III	2前		1								兼1
	韓国語基礎 I	1前		1								兼2
	韓国語基礎 II	1後		1								兼2
	韓国語基礎 III	2前		1								兼1
	インドネシア語基礎 I	1前		1								兼1
	インドネシア語基礎 II	1後		1								兼1
	インドネシア語基礎 III	2前		1								兼1
	フランス語基礎 I	1前		1								兼2
	フランス語基礎 II	1後		1								兼2
	フランス語基礎 III	2前		1								兼1
	ドイツ語基礎 I	1前		1								兼2
	ドイツ語基礎 II	1後		1								兼2
	ドイツ語基礎 III	2前		1								兼2
	スペイン語基礎 I	1前		1								兼1
	スペイン語基礎 II	1後		1								兼1
	スペイン語基礎 III	2前		1								兼1
	応用中国語演習	2後		1								兼1
	応用韓国語演習	2後		1								兼1
	応用インドネシア語演習	2後		1								兼1
応用フランス語演習	2後		1								兼1	
応用ドイツ語演習	2後		1								兼1	
応用スペイン語演習	2後		1								兼1	
情報活用演習 I	1前	2				1						
情報活用演習 II	2後	2				1						

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語	Communication in the Media	2後		1								兼1
	Communicative Listening and Writing	2前・後		1								兼1
	Dynamics of English Sound	2前・後		1								兼1
	Film English	2前・後		1								兼2
	Practical English Grammar	2後		1								兼1
	中国語基礎 I	1前・後		1								兼4
	中国語基礎 II	1前・後		1								兼2
	中国語基礎 III	2後		1								兼1
	韓国語基礎 I	1前・後		1								兼2
	韓国語基礎 II	1前・後		1								兼2
	韓国語基礎 III	2前・後		1								兼2
	インドネシア語基礎 I	1前・後		1								兼1
	インドネシア語基礎 II	1前・後		1								兼1
	インドネシア語基礎 III	2前・後		1								兼1
	フランス語基礎 I	1前・後		1								兼3
	フランス語基礎 II	1前・後		1								兼2
	フランス語基礎 III	2前・後		1								兼2
	ドイツ語基礎 I	1前・後		1								兼2
	ドイツ語基礎 II	1前・後		1								兼2
	ドイツ語基礎 III	2前・後		1								兼2
	スペイン語基礎 I	1前・後		1								兼1
	スペイン語基礎 II	1前・後		1								兼1
	スペイン語基礎 III	2前・後		1								兼1
	応用中国語演習	2前		1								兼1
	応用韓国語演習	2後		1								兼1
	応用インドネシア語演習	2後		1								兼1
応用フランス語演習	2後		1								兼1	
応用ドイツ語演習	2後		1								兼1	
応用スペイン語演習	2後		1								兼1	
情報活用演習 I	1前	2				1						
情報活用演習 II	2後	2				1						

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
情報活用演習	情報活用基礎演習A	1前・後		2							兼2
	情報活用基礎演習B	1後		2							兼1
	情報活用応用演習	1前・後		2							兼2
	情報活用特別演習	2前		2							兼1
	数と情報	1前・後		2							兼3
スポーツ・健康	生涯スポーツ1	1前・後	1								兼2
	生涯スポーツ2	2前・後		1							兼4
	生涯スポーツ3	3前・後		1							兼2
	健康科学	1前・後	1								兼1
	健康科学演習（心とからだ）	2後		1							兼2
キャリアデザイン	専門とキャリアA	2前	1			1					
	専門とキャリアB	2後	1			1					
	仕事と社会	3前		1							兼1
	キャリア研修I	1前・後		2							兼1
	キャリア研修II	2前・後		2							兼1
学部基礎科目	メディアと社会	1前	2				1				
	メディア学概論	1前	2					1			
	メディアと心理	1後	2				1				
	メディア・リテラシー論	1後	2					1			
	メディア発達史	1後	2				1				
	メディア情報概論	1前	2				1				
	メディアとモラル	1前	2				1				
	メディア社会と法	1後	2								兼1
コア領域	メディア社会論	2前	2				1				
	情報社会論	2前	2								兼1
	美術入門	1後	2								兼1
	消費社会論	1後	2								兼1
	メディア産業概論	2前	2				1				
メディア技法	メディア技法入門	1前	2				1	1			
	造形入門	1前	2								兼1
	デザイン技法I	2前	2				1				兼1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
情報活用演習	情報活用基礎演習A	1前・後		2							兼2
	情報活用基礎演習B	1後		2							兼1
	情報活用応用演習	1前・後		2							兼2
	情報活用特別演習	2前		2							兼1
	数と情報	1前・後		2							兼2
スポーツ・健康	生涯スポーツ1	1前・後	1								兼3
	生涯スポーツ2	2前・後		1							兼6
	生涯スポーツ3	3前・後		1							兼2
	健康科学	1前・後	1								兼1
	健康科学演習（心とからだ）	2後		1							兼2
キャリアデザイン	専門とキャリアA	2前	1				1				
	専門とキャリアB	2後	1				1				
	仕事と社会	3前		1							兼1
	キャリア研修I	1前・後		2							兼1
	キャリア研修II	2前・後		2							兼1
学部基礎科目	メディアと社会	1前	2					1			
	メディア学概論	1前	2						1		
	メディアと心理	1後	2					1			
	メディア・リテラシー論	1後	2						1		
	メディア発達史	1後	2						1		
	メディア情報概論	1前	2					1			
	メディアとモラル	1前	2					1			
	メディア社会と法	1後	2								兼1
コア領域	メディア社会論	2前	2				1				
	情報社会論	2前	2								兼1
	美術入門	1後	2								兼1
	消費社会論	1後	2								兼1
	メディア産業概論	2前	2					1			
メディア技法	メディア技法入門	1前	2						1	1	
	造形入門	1前	2								兼1
	デザイン技法I	2前	2						1		兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部基幹科目 方法論領域	デザイン技法Ⅱ	2後		2		1						
	メディア調査法1	2前	2			1						
	メディア調査法2	2後		2			1					
	Web技法	1後		2		1						
	写真撮影技法	1後・2前		2							兼1	
	編集技法Ⅰ	2後		2							兼1	
	編集技法Ⅱ	3前		2		1						
	コンテンツ企画	1後		2							兼1	
	メディア取材法	2前		2			1					
	メディア文章表現	3前		2		1						
	デジタル・プレゼンテーションⅠ	3前		2							兼1	
	デジタル・プレゼンテーションⅡ	3後		2							兼1	
	メディア身体表現	2後		2							兼1	
	メディア統計分析	3前		2							兼1	
	メディアと社会・文化分野	メディア思想史	2後		2			1				
放送論		2後		2			1					
ジャーナリズム論		2後		2		1						
インターネット・コミュニケーション論*		2後		2			1					
グローバルジャーナリズム論		3前		2		1						
地域メディア論		2後		2			1					
メディア・リテラシー演習		3前		2				1				
メディア文化論		2前		2				1				
音楽文化論		3後		2				1				
サブカルチャー論		3前		2				1				
多文化共生論		3前		2							兼1	
教育とメディア		3前		2		1						
エデュテイメントシステム制作演習		3後		2		1						
出版メディア論		2後		2		1						
コミックス文化論		3後		2							兼1	
電子出版論	3後		2							兼1		
メディア社会・文化特講	3後		2				1					

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部基幹科目 方法論領域	デザイン技法Ⅱ	2後		2		1						
	メディア調査法1	2前	2				1					
	メディア調査法2	2後		2				1				
	Web技法	1後		2			1					
	写真撮影技法	1後・2前		2							兼1	
	編集技法Ⅰ	2後		2							兼1	
	編集技法Ⅱ	3前		2		1						
	コンテンツ企画	1後		2							兼1	
	メディア取材法	2前		2			1					
	メディア文章表現	3前		2		1						
	デジタル・プレゼンテーションⅠ	3前		2							兼1	
	デジタル・プレゼンテーションⅡ	3後		2							兼1	
	メディア身体表現	2後		2							兼1	
	メディア統計分析	3前		2							兼1	
	メディアと社会・文化分野	メディア思想史	2後		2			1				
放送論		2後		2			1					
ジャーナリズム論		2後		2		1						
インターネット・コミュニケーション論*		2後		2			1					
グローバルジャーナリズム論		3前		2		1						
地域メディア論		2後		2			1					
メディア・リテラシー演習		3前		2				1				
メディア文化論		2前		2				1				
音楽文化論		3後		2				1				
サブカルチャー論		3前		2				1				
多文化共生論		3前		2							兼1	
教育とメディア		3前		2		1						
エデュテイメントシステム制作演習		3後		2		1						
出版メディア論		2後		2		1						
コミックス文化論		3後		2							兼1	
電子出版論	3後		2							兼1		
メディア社会・文化特講	3後		2				1					

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
展開科目	メディアとビジネス	2前		2								兼1
	イベント概論	2後		2		1						
	イベントプロデュース論	3前		2		1						
	イベント制作・運営演習	3後		2		1						
	広告論	2後		2			1					
	広告表現論	3前		2			1					
	広告プランニング論	3前		2			1					
	広告制作演習	3前		2			1					
	広報・PR論	2後		2								兼1
	社会デザイン論	3後		2		1						
	エンターテインメント論	2後		2			1					
	アニメーション制作演習Ⅰ	2後		2			1					
	アニメーション制作演習Ⅱ	3前		2			1					
	アニメーション制作演習Ⅲ	3後		2			1					
	サウンド分析演習	3前		2								兼1
	サウンド制作演習	3後		2								兼1
	イベント・広告プランニング特講	3後		2		1						
	エンターテインメント・プロデュース特講	3後		2			1					
メディアと表現・技術分野	デザイン論	2後		2		1						
	デジタル・アーカイブ論	3前		2								兼1
	メディアアート	3後		2								兼1
	メディア情報論	2前		2				1				
	映像表現論	2前		2			1					
	映画論	2後		2		1						
	映像制作演習Ⅰ	2後		2			1	1				
	映像制作演習Ⅱ	2後		2			1	1				
	映像制作演習Ⅲ	3前		2			1	1				
	映像制作応用演習	3後		2			1					
	ライブ番組制作演習	3前		2								兼1
	シナリオ論	3前		2		1						
ショートフィルム論	3後		2		1							

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
展開科目	メディアとビジネス	2前		2								兼1
	イベント概論	2後		2		1						
	イベントプロデュース論	3前		2		1						
	イベント制作・運営演習	3後		2		1						
	広告論	2後		2			1					
	広告表現論	3前		2			1					
	広告プランニング論	3前		2			1					
	広告制作演習	3前		2			1					
	広報・PR論	2後		2								兼1
	社会デザイン論	3後		2		1						
	エンターテインメント論	2後		2			1					
	アニメーション制作演習Ⅰ	2後		2			1					
	アニメーション制作演習Ⅱ	3前		2			1					
	アニメーション制作演習Ⅲ	3後		2			1					
	サウンド分析演習	3前		2								兼1
	サウンド制作演習	3後		2								兼1
	イベント・広告プランニング特講	3後		2		1						
	エンターテインメント・プロデュース特講	3後		2			1					
メディアと表現・技術分野	デザイン論	2後		2		1						
	デジタル・アーカイブ論	3前		2								兼1
	メディアアート	3後		2								兼1
	メディア情報論	2前		2				1				
	映像表現論	2前		2			1					
	映画論	2後		2				1				
	映像制作演習Ⅰ	2後		2			1	1				
	映像制作演習Ⅱ	2後		2			1	1				
	映像制作演習Ⅲ	3前		2			1	1				
	映像制作応用演習	3後		2			1					
	ライブ番組制作演習	3前		2								兼1
	シナリオ論	3前		2					1			
ショートフィルム論	3後		2					1				

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	映像制作技術論	3前		2				1				
	インタフェース論	2後		2		1						
	プログラミング基礎	2後		2				1				
	Webシステム	3後		2				1				
	情報ネットワーク論	3前		2		1						
	インタラクティブアプリケーションⅠ	3前		2				1				
	インタラクティブアプリケーションⅡ	3後		2				1				
	映像表現特講	3後		2			1					
	メディア情報特講	3後		2		1						
社会連携プログラム	メディア基礎演習A	2前		2		8	6	3	2			
	メディア基礎演習B	2後		2		8	6	3	2			
	メディア実践演習1	3前	2			8	6	3	2			
	メディア実践演習2	3後	2			8	6	3	2			
	メディア実践演習3	4前	2			8	6	3	2			
	メディア実践演習4	4前	2			8	6	3	2			
	インターンシップ入門	3前		2			1					
	インターンシップ(短期)	3後・4前		2		8	6	3	2			
	インターンシップ(長期)	3後・4前		4		8	6	3	2			
卒業研究	4後	4			8	6	3	2				
卒業要件及び履修方法												
卒業要件:124単位 共通科目:28単位以上 専門教育科目:86単位以上(必修科目46単位、選択科目40単位以上) (内訳)学部基礎科目 16単位必修 学部基幹科目コア領域 10単位必修 方法論領域 8単位必修および4単位選択必修 展開科目 選択した分野より18単位選択必修 うち、*を付した5科目は分野必修 社会連携プログラム 8単位必修およびメディア基礎演習A・Bより いずれか2単位選択必修 卒業研究 4単位必修 自由選択科目:10単位 その他: ・学生は履修モデルを踏まえて分野を選択する。 選択した分野の下記科目は必ず履修すること(分野必修)。 メディアと社会・文化分野 メディア文化論、ジャーナリズム論、 インターネット・コミュニケーション論、メディア思想史、放送論 メディアと産業・消費分野 メディアとビジネス、広告論、広報・PR論、イベント概論、 エンターテインメント論 メディアと表現・技術分野 メディア情報論、映像表現論、デザイン論、映画論、インタフェース論 ・履修科目の登録上限は半期22単位とする。												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	映像制作技術論	3前		2					1			
	インタフェース論	2後		2				1				
	プログラミング基礎	2後		2					1			
	Webシステム	3後		2					1			
	情報ネットワーク論	3前		2				1				
	インタラクティブアプリケーションⅠ	3前		2					1			
	インタラクティブアプリケーションⅡ	3後		2					1			
	映像表現特講	3後		2					1			
	メディア情報特講	3後		2				1				
社会連携プログラム	メディア基礎演習A	2前		2				7	7	3	2	
	メディア基礎演習B	2後		2				7	7	3	2	
	メディア実践演習1	3前	2					7	7	3	2	
	メディア実践演習2	3後	2					7	7	3	2	
	メディア実践演習3	4前	2					7	7	3	2	
	メディア実践演習4	4前	2					7	7	3	2	
	インターンシップ入門	3前		2					1			
	インターンシップ(短期)	3後・4前		2				7	7	3	2	
	インターンシップ(長期)	3後・4前		4				7	7	3	2	
卒業研究	4後	4					7	7	3	2		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件:124単位 共通科目:28単位以上 専門教育科目:86単位以上(必修科目46単位、選択科目40単位以上) (内訳)学部基礎科目 16単位必修 学部基幹科目コア領域 10単位必修 方法論領域 8単位必修および4単位選択必修 展開科目 選択した分野より18単位選択必修 うち、*を付した5科目は分野必修 社会連携プログラム 8単位必修およびメディア基礎演習A・Bより いずれか2単位選択必修 卒業研究 4単位必修 自由選択科目:10単位 その他: ・学生は履修モデルを踏まえて分野を選択する。 選択した分野の下記科目は必ず履修すること(分野必修)。 メディアと社会・文化分野 メディア文化論、ジャーナリズム論、 インターネット・コミュニケーション論、メディア思想史、放送論 メディアと産業・消費分野 メディアとビジネス、広告論、広報・PR論、イベント概論、 エンターテインメント論 メディアと表現・技術分野 メディア情報論、映像表現論、デザイン論、映画論、インタフェース論 ・履修科目の登録上限は半期22単位とする。												

【平成30年度】

p	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
初年次セミナー	フレッシュマンセミナー	1前	1			5	4	3	2		
	ベーシックセミナー	1後	1			5	4	3	2		
分野横断科目	大学生活と学問	1前		2							兼14
	知の探究法	1前		2		1					兼4
	「目白大学」を知る	1前		2		1	2				兼8
	科学的なものの見方・考え方	1前		2							兼4
学際科目	雑穀文化を学ぶ	2後		2							兼4
	感性を磨く芸術論	2後		2							兼3
	知の対象としての恋愛	2後		2			1				兼5
	人間と遊び	2後		2							兼6
	社会生活のデザイン	2後		2							兼3
	子供とメディア	2後		2		2	1				
	「観光」で読み解く現代社会	2後		2							兼5
	お金とつきあう	2後		2							兼3
	社会の中のことば	2後		2							兼2
	日本語再発見	2後		2							兼6
コトバの実験室	2後		2							兼2	
異分野入門科目	心理学フロンティア	2前		2							兼6
	ボランティア入門	2前		2							兼9
	保育と乳幼児精神保健	2前		2							兼3
	現代教育入門	2前		2							兼4
	ビジネス偉人伝～先達に学ぶ生きるための智慧	2前		2							兼4
	ことばの「しくみ」と「はたらき」	2前		2							兼3
	東アジアの言語と文化	2前		2							兼2
古典に学ぶ	2前		2							兼4	
グローバル課題探求科目	グローバルな視点で学ぶ社会と人間	3前		2							兼5
	サステイナブル社会を考える	3前		2							兼4
	食と農から考える地域と世界	3後		2							兼3
	世界の今を学ぼう	3後		2							兼2
総合科目	日本国憲法	1後		2							兼1

【平成30年度】

p	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
資格関連科目	遺跡を科学する（考古学）	1後		2								兼1
	芸術と人間（芸術論）	1後		2								兼1
	政治のしくみ（政治学）	1前		2								兼1
	アジアの歴史と文化（東洋史）	1後		2								兼1
	西洋の歴史と文化（西洋史）	1後		2								兼1
	日本の歴史（日本史）	1前・後		2								兼2
	環境物理学	1後		2								兼1
	自然地理学概説	1後		2								兼1
	やさしい観光開発（観光開発論）	1後		2								兼1
	社会学	1前		2								兼1
	法学	1前		2								兼1
	社会学概論	1前		2								兼1
	漢文学の世界（漢文学論）	1前		2								兼1
	現代文学	1前		2								兼1
倫理	1前		2								兼1	
国語	日本語読解演習Ⅰ	1前	1									兼4
	日本語読解演習Ⅱ	1後	1									兼4
	日本語表現演習Ⅰ	2前	1									兼4
	日本語表現演習Ⅱ	2後	1									兼4
	専門レポート基礎演習	2後	1									兼3
共通科目	英語基礎 (Fundamentals of English) I	1後	1									兼4
	英語基礎 (Fundamentals of English) II	1後	1									兼4
	総合英語 (Integrated English) I	1前	1									兼4
	総合英語 (Integrated English) II	2前	1									兼4
	専門基礎英語 (Basic English for Special Fields)	2後	1									兼3
	English Test Strategies	1前・後	1									兼5
	English Using CALL	1前・後	1									兼2
	Advanced Reading	2前	1									兼1
	Business English	2後	1									兼2
	Communication in the Media	2前	1									兼1
	Communicative Listening and Writing	2後	1									兼1

【平成30年度】

p	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
外国語	Dynamics of English Sound	2前		1								兼2
	Film English	2後		1								兼1
	Practical English Grammar	2前		1								兼1
	中国語基礎 I	1前・後		1								兼4
	中国語基礎 II	1前・後		1								兼2
	中国語基礎 III	2前		1								兼1
	韓国語基礎 I	1前・後		1								兼3
	韓国語基礎 II	1前・後		1								兼3
	韓国語基礎 III	2前		1								兼1
	インドネシア語基礎 I	1前・後		1								兼1
	インドネシア語基礎 II	1前・後		1								兼1
	インドネシア語基礎 III	2前		1								兼1
	フランス語基礎 I	1前・後		1								兼3
	フランス語基礎 II	1前・後		1								兼3
	フランス語基礎 III	2前		1								兼1
	ドイツ語基礎 I	1前・後		1								兼2
	ドイツ語基礎 II	1前・後		1								兼2
	ドイツ語基礎 III	2前		1								兼2
	スペイン語基礎 I	1前・後		1								兼1
	スペイン語基礎 II	1後		1								兼1
	スペイン語基礎 III	2前		1								兼1
	応用中国語演習	2後		1								兼1
	応用韓国語演習	2後		1								兼1
	応用インドネシア語演習	2後		1								兼1
	応用フランス語演習	2後		1								兼1
	応用ドイツ語演習	2後		1								兼1
応用スペイン語演習	2後		1								兼1	
情報活用演	情報活用演習 I	1前	2				1					
	情報活用演習 II	2後	2				1					
	情報活用基礎演習 A	1前・後		2								兼2
	情報活用基礎演習 B	1後		2								兼1

【平成30年度】

p	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
習	情報活用応用演習	1前・後		2								兼2
	情報活用特別演習	2前		2								兼1
	数と情報	1前・後		2								兼3
スポーツ・健康	生涯スポーツ1	1前・後	1									兼3
	生涯スポーツ2	2前・後		1								兼4
	生涯スポーツ3	3前・後		1								兼2
	健康科学	1前・後	1									兼1
	健康科学演習(心とからだ)	2後		1								兼2
キャリアデザイン	専門とキャリアA	2前	1			1						
	専門とキャリアB	2後	1			1						
	仕事と社会	3前		1								兼1
	キャリア研修I	1前・後		2								兼1
	キャリア研修II	2前・後		2								兼1
学部基礎科目	メディアと社会	1前	2				1					
	メディア学概論	1前	2					1				
	メディアと心理	1後	2			1						
	メディア・リテラシー論	1後	2				1					
	メディア発達史	1後	2			1						
	メディア情報概論	1前	2			1						
	メディアとモラル	1前	2			1						
	メディア社会と法	1後	2									兼1
コア領域	メディア社会論	2前	2			1						
	情報社会論	2前	2									兼1
	美術入門	1後	2									兼1
	消費社会論	1後	2									兼1
	メディア産業概論	2前	2			1						
	メディア技法入門	1前	2				1	1				
	造形入門	1前	2									兼1
	デザイン技法I	2前	2			1						兼1
	デザイン技法II	2後		2		1						
	メディア調査法1	2前	2				1					

【平成30年度】

p	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部基幹科目 方法論領域	メディア調査法2	2後		2				1				
	Web技法	1後		2			1					
	写真撮影技法	1後・2前		2								兼1
	編集技法I	2後		2								兼1
	編集技法II	3前		2		1						
	コンテンツ企画	1後		2								兼1
	メディア取材法	2前		2			1					
	メディア文章表現	3前		2		1						
	デジタル・プレゼンテーションI	3前		2								兼1
	デジタル・プレゼンテーションII	3後		2								兼1
	メディア身体表現	2後		2								兼1
	メディア統計分析	3前		2								兼1
	メディアと社会・文化分野	メディア思想史	2後		2			1				
放送論		2後		2			1					
ジャーナリズム論		2後		2		1						
インターネット・コミュニケーション論*		2後		2			1					
グローバルジャーナリズム論		3前		2		1						
地域メディア論		2後		2			1					
メディア・リテラシー演習		3前		2				1				
メディア文化論		2前		2				1				
音楽文化論		3後		2				1				
サブカルチャー論		3前		2				1				
多文化共生論		3前		2								兼1
教育とメディア		3前		2		1						
エデュテイメントシステム制作演習		3後		2		1						
出版メディア論		2後		2		1						
コミックス文化論		3後		2								兼1
電子出版論		3後		2								兼1
メディア社会・文化特講		3後		2				1				
メディアとビジネス	2前		2								兼1	
イベント概論	2後		2		1							

【平成30年度】

p	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
展開科目	イベントプロデュース論	3前		2		1						
	イベント制作・運営演習	3後		2		1						
	広告論	2後		2			1					
	広告表現論	3前		2			1					
	広告プランニング論	3前		2			1					
	メディアと産業・消費分野	広告制作演習	3前		2			1				
	広報・PR論	2後		2								兼1
	社会デザイン論	3後		2		1						
	エンターテインメント論	2後		2			1					
	アニメーション制作演習Ⅰ	2後		2			1					
	アニメーション制作演習Ⅱ	3前		2			1					
	アニメーション制作演習Ⅲ	3後		2			1					
	サウンド分析演習	3前		2								兼1
	サウンド制作演習	3後		2								兼1
	イベント・広告プランニング特講	3後		2		1						
	エンターテインメント・プロデュース特講	3後		2			1					
メディアと表現・技術分野	デザイン論	2後		2		1						
	デジタル・アーカイブ論	3前		2								兼1
	メディアアート	3後		2								兼1
	メディア情報論	2前		2				1				
	映像表現論	2前		2			1					
	映画論	2後		2		1						
	映像制作演習Ⅰ	2後		2			1	1				
	映像制作演習Ⅱ	2後		2			1	1				
	映像制作演習Ⅲ	3前		2			1	1				
	映像制作応用演習	3後		2			1					
	ライブ番組制作演習	3前		2								兼1
	シナリオ論	3前		2		1						
	ショートフィルム論	3後		2		1						
映像制作技術論	3前		2				1					
インタフェース論	2後		2		1							

【平成30年度】

p	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	プログラミング基礎	2後		2				1				
	Webシステム	3後		2				1				
	情報ネットワーク論	3前		2		1						
	インタラクティブアプリケーションⅠ	3前		2				1				
	インタラクティブアプリケーションⅡ	3後		2				1				
	映像表現特講	3後		2			1					
	メディア情報特講	3後		2		1						
社会連携プログラム	メディア基礎演習A	2前		2		8	6	3	2			
	メディア基礎演習B	2後		2		8	6	3	2			
	メディア実践演習1	3前	2			8	6	3	2			
	メディア実践演習2	3後	2			8	6	3	2			
	メディア実践演習3	4前	2			8	6	3	2			
	メディア実践演習4	4前	2			8	6	3	2			
	インターンシップ入門	3前		2				1				
	インターンシップ(短期)	3後・4前		2		8	6	3	2			
インターンシップ(長期)	3後・4前		4		8	6	3	2				
卒業研究	卒業研究	4後	4			8	6	3	2			
卒業要件及び履修方法												
<p>卒業要件:124単位 共通科目:28単位以上 専門教育科目:86単位以上(必修科目46単位、選択科目40単位以上) (内訳)学部基礎科目 16単位必修 学部基幹科目コア領域 10単位必修 方法論領域 8単位必修および4単位選択必修 展開科目 選択した分野より18単位選択必修 うち、*を付した5科目は分野必修 社会連携プログラム 8単位必修およびメディア基礎演習A・Bより いずれか2単位選択必修 卒業研究 4単位必修 自由選択科目:10単位</p> <p>その他: ・学生は履修モデルを踏まえて分野を選択する。 選択した分野の下記科目は必ず履修すること(分野必修)。 メディアと社会・文化分野 メディア文化論、ジャーナリズム論、 インターネット・コミュニケーション論、メディア思想史、放送論 メディアと産業・消費分野 メディアとビジネス、広告論、広報・PR論、イベント概論、 エンターテインメント論 メディアと表現・技術分野 メディア情報論、映像表現論、デザイン論、映画論、インタフェース論</p> <p>・履修科目の登録上限は半期22単位とする。</p>												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。

【平成30年度】

p	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	

- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。
（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育課程の充実を図るために、「知の探求法」の配当年次を「1年後期」から「1年前期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「科学的なものの見方・考え方」の配当年次を「1年後期」から「1年前期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「日本国憲法」の配当年次を「1年前期・後期」から「1年後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「日本国憲法」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「日本語読解演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「英語基礎(Fundamentals of English)Ⅰ」の配当年次を「1年前期」から「1年後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「English Using CALL」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。

【令和元年度】

- ・教育課程の充実を図るために、「雑穀文化を学ぶ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「心理学フロンティア」の専任教員等の配置を「兼任・兼任6」から「兼任・兼任7」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「現代教育入門」の専任教員等の配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任6」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「ことばの「しくみ」と「はたらき」」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「古典に学ぶ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「法学」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「社会学概論」の配当年次を「1年前期」から「1年前期・2年前期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「社会学概論」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「専門レポート基礎演習」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「総合英語(Integrated English)Ⅱ」の配当年次を「2年前期」から「2年後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「専門基礎英語(Basic English for Special Fields)」の配当年次を「2年後期」から「2年前期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「専門基礎英語(Basic English for Special Fields)」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「Business English」の配当年次を「2年後期」から「2年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「Business English」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「Communication in the Media」の配当年次を「2年前期」から「2年後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「Communicative Listening and Writing」の配当年次を「2年後期」から「2年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「Dynamics of English Sound」の配当年次を「2年前期」から「2年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「Dynamics of English Sound」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「Film English」の配当年次を「2年後期」から「2年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「Film English」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「Practical English Grammar」の配当年次を「2年前期」から「2年後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「中国語基礎Ⅲ」の配当年次を「2年前期」から「2年後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「韓国語基礎Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「韓国語基礎Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「韓国語基礎Ⅲ」の配当年次を「2年前期」から「2年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「韓国語基礎Ⅲ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「インドネシア語基礎Ⅲ」の配当年次を「2年前期」から「2年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「フランス語基礎Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「フランス語基礎Ⅲ」の配当年次を「2年前期」から「2年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「フランス語基礎Ⅲ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「ドイツ語基礎Ⅲ」の配当年次を「2年前期」から「2年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「スペイン語基礎Ⅱ」の配当年次を「1年後期」から「1年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「スペイン語基礎Ⅲ」の配当年次を「2年前期」から「2年前期・後期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「応用中国語演習」の配当年次を「2年後期」から「2年前期」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「数と情報」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育課程の充実を図るために、「生涯スポーツⅡ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任6」に変更。
- ・専任教員の変更(退職とそれに伴う補充、平成31年1月教員審査済)のために、「メディア発達史」「映画論」「シナリオ論」「ショートフィルム論」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の変更(退職とそれに伴う補充、平成31年1月教員審査済)のために、「メディア基礎演習A」「メディア基礎演習B」「メディア実践演習1」「メディア実践演習2」「メディア実践演習3」「メディア実践演習4」「インターンシップ(短期)」「インターンシップ(長期)」「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授8」から「教授7」、「准教授6」から「准教授7」に変更。

(注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、

授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。

- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
39 科目	163 科目	0 科目	202 科目	39 科目 [0]	163 科 目 [0]	0 科目 [0]	202 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{202} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (電車・バス90分)		
	校舎敷地	49,716.30㎡	23,095.99㎡	14,083.86㎡	86,896.15㎡			
	運動場用地	0㎡	13,351.00㎡	13,800.00㎡	27,151.00㎡			
	小 計	49,716.30㎡	36,446.99㎡	27,883.86㎡	114,047.15㎡			
	そ の 他	1,877.06㎡	0㎡	0㎡	1,877.06㎡			
合 計	51,593.36㎡	36,446.99㎡	27,883.86㎡	115,924.21㎡				
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	目白大学短期大学部と共用 心理学部設置のため、カウンセリング室としていた部分を大学校舎として整備するため(元) 校舎の一部(8号館)の建て替えに着手したこと、及び短期大学部新学科の設置認可申請に伴う共用面積の見直しにより、平成32年度以降の校舎面積が増加することとなった。(30)			
	24,372.88㎡ 22,447.43㎡ (22,447.43㎡)	42,666.94㎡ 41,964.86㎡ 41,654.71㎡ (41,654.71㎡)	16,452.63㎡ 17,170.58㎡ (17,170.58㎡)	83,492.45㎡ 82,787.37㎡ 81,272.72㎡ (81,272.72㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	目白大学短期大学部と共用 新8号館建設のため講義室・実験室が増加、旧8号館解体のため情報処理学習施設が減少(元)		
	95 81室	43室	61 57室	15 16室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			一部2名1室となったため(元) (助教2名1室)		
	メディア学部 メディア学科		17 18 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	メディア学部	394,500 [35,300] (375,000 [34,800])	1,400 [400] (1,400 [400])	200 [190] (200 [190])	13,000 (12,800)	0 ()	0 ()	
	計	394,500 [35,300] (375,000 [34,800])	1,400 [400] (1,400 [400])	200 [190] (200 [190])	13,000 (12,800)	0 ()	0 ()	
(6) 図書館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体				
	4,393.13㎡	708	300,000					
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	4,636.70㎡	テニスコート —						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	実績に基づく(元)
	経費の見積り	300千円	300千円	図書購入費	2,100千円	610千円 2,200千円	2,200千円	
	共同研究費等	0千円 1,300千円	1,300千円	設備購入費	268,792千円	2,961千円 5,000千円	5,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次 1,376千円	第2年次 1,101千円	第3年次 1,101千円	第4年次 1,101千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		経常費補助金、資産運用収入、付随事業収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	目 白 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
人間学部						1.02				
心理カウンセリング学科	4	120	3年次 10	500	学士 (心理学)	1.11	—	平成12	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号	
人間福祉学科	4	100	3年次 10	440	学士 (人間福祉学)	0.89	—	平成16	同上	平成29年度定員変更 (△20)
子ども学科	4	140	3年次 10	580	学士 (子ども学)	0.99	—	平成19	同上	
児童教育学科	4	50	—	200	学士 (児童教育学)	1.17	—	平成21	同上	
社会学部						1.08				
社会情報学科	4	120	3年次 5	490	学士 (社会情報学)	1.09	—	平成12	同上	
メディア表現学科	4	—	—	—	学士 (社会科学)	—	—	平成12	同上	平成30年学生募集停止
地域社会学科	4	80	3年次 5	330	学士 (地域社会学)	1.09	—	平成18	同上	
メディア学部						1.03				
メディア学科	4	140	—	280	学士 (メディア学)	1.03	—	平成30	同上	
経営学部						1.01				
経営学科	4	130	3年次 5	520	学士 (経営学)	1.01	—	平成14	同上	平成29年度定員変更 (10)
外国語学部						1.09				
英米語学科	4	80	3年次 5	330	学士 (英米語)	1.16	—	平成17	同上	
中国語学科	4	40	—	160	学士 (中国語)	0.91	—	平成20	同上	
韓国語学科	4	60	—	240	学士(韓国語) 学士(韓国語教育)	1.13	—	平成20	同上	
日本語・日本語教育学科	4	40	—	160	学士(日本語) 学士(日本語教育)	1.05	—	平成20	同上	
保健医療学部						0.99				
理学療法学科	4	85	—	335	学士 (理学療法学)	1.1	—	平成17	埼玉県さいたま市 岩槻区浮谷320番地	平成29年度定員変更 (5)
作業療法学科	4	60	—	240	学士 (作業療法学)	0.94	—	平成17	同上	
言語聴覚学科	4	40	—	160	学士 (言語聴覚学)	0.83	—	平成18	同上	
看護学部						1.09				
看護学科	4	105	—	415	学士 (看護学)	1.09	—	平成18	同上	平成29年度定員変更 (5)

大学の名称		目 白 大 学 大 学 院								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収 容 員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
国際交流研究科										
国際交流専攻	2	20	—	40	修士 (国際学)	0.5	—	平成11	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号	
心理学研究科										
現代心理学専攻	2	20	—	40	修士 (心理学)	0.32	—	平成20	同上	
臨床心理学専攻	2	30	—	60	修士 (心理学)	0.28	—	平成14	同上	
心理学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (心理学)	0.22	—	平成16	同上	
経営学研究科										
経営学専攻	2	20	—	40	修士 (経営学)	0.22	—	平成16	同上	
経営学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (経営学)	0.11	—	平成21	同上	
生涯福祉研究科										
生涯福祉専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学) 修士(保育学)	0.55	—	平成19	同上	
言語文化研究科										
英語・英語教育専攻	2	10	—	20	修士 (英語学)	0.00	—	平成20	同上	
日本語・日本語教育専攻	2	10	—	20	修士 (日本語学)	0.60	—	平成20	同上	
中国・韓国言語文化専攻	2	10	—	20	修士(中国言語文化) 修士(韓国言語文化)	0.30	—	平成20	同上	
看護学研究科										
看護学専攻	2	15	—	30	修士 (看護学)	0.46	—	平成21	埼玉県和光市諏訪 2丁目12番地	
リハビリテーション学研究科										
リハビリテーション	2	15	—	30	修士 (リハビリテーション学)	0.19	—	平成24	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号	
大学の名称		目 白 大 学 短 期 大 学 部								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収 容 員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
生活科学科	2	—	—	—	短期大学士 (生活科学)	—	—	昭和39	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号	平成31年学生募集停止
製菓学科	2	55	—	125	短期大学士 (生活科学)	1.00	—	平成19	同上	平成30年度定員変更(△10) 平成31年度定員変更(△15)
ビジネス社会学科	2	75	—	150	短期大学士 (社会経済)	1.07	—	平成22	同上	平成30年度定員変更(△10)
歯科衛生学科	3	60	—	60	短期大学士 (歯科衛生学)	0.51	—	令和元	同上	

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科及び別科を除く)。

・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。

※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている

場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
<p>認 可 時 (平成29年)</p>	<p>1. 本学から示されたメディア学を学ぶための基盤となる社会学に関する知識を十分に修得できるよう、新たに科目(社会学理論、社会学史等)を配置することや関連科目の授業内容を改めることにより、教育課程を充実させること。</p>	<p>指摘を受けて、学部基幹科目「メディアと社会」および「メディア学概論」のシラバスを見直し、社会学の系譜と理論、ならびにそれらの理論とメディア学との関係を体系的に学べるように充実させた(添付資料1、2)。</p> <p>「メディアと社会」は元々、本学部が考えるメディア学の基礎となる社会学の理論を紹介しつつ、社会学が「社会」をどのようにとらえてきたかを理解し、今、ここにある世界としての現代社会について考えるための視点を身につけることを目的に設置していた科目である。</p> <p>また「メディア学概論」は、メディア学の構造を概観しつつ、その基礎となるようなメディアに関する理論および歴史を理解し、各分野の専門的な学びに架橋するための科目である。両者とも1年生の春学期に開講される、重要な学部基幹科目として配置されていた。</p> <p>今回はこの2科目について、上に示した授業のねらいを踏襲しつつ、メディア学を学ぶための基盤となる社会学に関する知識をより深く学べるよう、授業各回の内容ならびに授業順序の見直しを行なった。変更点は以下の通りである。</p> <p>①社会学の系譜を理解する 「メディアと社会」シラバスに社会学が辿ってきたあゆみを学ぶ単元(第2~4回)を導入し、社会学が「社会」をどのようにとらえてきたか、またその枠組みがどのように変化してきたか、そこにはどのような理論的背景があるのか等を説明することとした。</p> <p>②社会学の理論を深める 申請時の「メディアと社会」では「自己」「親密性」「近代家族」「労働」「文化」「逸脱」「感情」という7つのキーワードで社会学理論を説明する枠組みを想定していたが、今回は上記①に挙げた社会学史を踏まえ、「合理性」「社会化」「社会的分業」「社会的自己」「生活世界」「相互作用」「構築主義」「親密性」という8つの概念を順に説明することで、歴史的・系統的に社会学の深化を学べるシラバスに変更した。</p> <p>また「メディア学概論」においても「権力」「差異化」といったキーワードを追加し、メディア学を学ぶ上で重要となる社会学の概念を説明する単元を増やすと同時に、これらの理論がメディア学の各領域にどのように関係しているかを説明する単元を設けて、メディア学と社会学理論のつながりを体系的に学べるようシラバスを充実させた。</p> <p>なお、「メディアと社会」の必須教科書(ならびに「メディア学概論」の参考図書)として、友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編(2007)『社会学のカー最重要概念・命題集』有斐閣を指定し、授業の予習・復習ならびにレポート作成時に活用させることで、社会学理論への理解をさらに深めることのできる体制を用意した。</p>	

<p>2. 「情報ネットワーク論」について、基礎的な理論を学修する講義科目として、十分な教育を確実に行うこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>「情報ネットワーク論」の授業内容について、再度教育内容に関して検討し、基礎的な理論を学修する講義科目として、十分な教育を確実にすることができるようシラバスの設計を行った（添付資料3）。</p> <p>具体的な対応は以下の通りである。</p> <p>1) 第1回に、情報ネットワークについて概観し、第2回以降でデジタルデータ伝送、データ通信と通信プロトコル、インターネットの基礎的な技術について学習を進める。その上で、代表的な情報ネットワークであるWeb、Webで動作するECシステム、最近注目されているIoT（Internet of Things）等について学習する。最後にセキュリティについても学ぶ。</p> <p>2) 小テスト、レポート課題により適宜、習熟度をはかり、十分かつ確実な教育内容となるよう補足や追加説明を随時行う。</p>	<p>履行中</p>	<p>提出したシラバスにもとづいて、1期生が3年生となる令和2年度に実施予定。</p>
<p>3. 「メディア実践演習3,4」については、4年次前期の前半及び後半で、それぞれ集中的に学修するとあることから、学生が学習目標や授業計画を正しく理解した上で履修できるよう、シラバスを充実させること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>指摘を受けて、メディア実践演習3,4の位置づけを正しく理解できるよう、学修目標や授業計画に関するシラバスの記述を充実させた（添付資料4）。具体的には以下の通りである。</p> <p>①メディア実践演習3のシラバスについて 「備考」欄において、4年春学期前半に週2コマで開講する科目であることを明記した。さらに、3年生で実施したクラス単位での実践プロジェクトから得られた知見を整理・確認した上で、メディア実践演習の最終成果として4年春学期に展開する個人研究プロジェクトの実施方法を確認し、具体的な計画を策定するというこの科目の位置づけを、「授業のねらい」および「学生の学習目標」で明確にした。</p> <p>②メディア実践演習4のシラバスについて 「備考」欄において、4年春学期後半に週2コマで開講する科目であることを明記した。また、「授業のねらい」および「学生の学習目標」において、メディア実践演習3で策定した計画に基づき実際に個人研究プロジェクトを実施することと、実施結果から得られた知見を整理し、4年秋学期の卒業研究に活かすための方策を考えるという、この科目の位置づけや目的を明確にした。</p> <p>さらに授業内容も、全体を1. 個人研究プロジェクトの実施、2. 個人研究プロジェクトを実施した結果の整理、3. 得られた知見のプレゼンテーション、4. これまでのメディア実践演習の振り返り、5. これまでのメディア実践演習の成果を卒業研究に活かすためのディスカッションという5段階に分け、それぞれの段階で学生が取り組むべき事柄を明確にした。</p>	<p>履行済</p>	

	<p>○メディア調査法の学修においては、調査結果を正しく読み解く知識を修得することが重要なため、学修内容を充実することが望ましい。</p>	<p>本学部では、ディプロマポリシーに基づき、全学生に修得させる能力の一つに「メディアが関わる事象に対する実践的な調査・分析・評価をおこなう能力」を挙げている。メディア調査法の学修に関しては、上述の部分に大きく関わる部分として捉えており、調査方法の修得と合わせて調査結果を正しく読み解く知識を修得できる内容として学修内容を充実させる。</p> <p>具体的な対応は下記の通りである。</p> <p>1) 社会調査法の基礎的な知識を得て実証的研究方法について理解することを目的とする「メディア調査法1」については必修科目として、本学部の全学生に履修させる。本授業においては、社会調査法の基礎を学んだのち、多様な社会調査法について実践しながら調査結果の読み解き方について教授する。</p> <p>2) 「メディア調査法2」については、質問紙調査を中心にその実施手順と注意事項を学ぶ授業であるが、合わせて、メディアで流通する質問紙調査の結果を正しく読み解くリテラシーを身につけることを目標としている。</p> <p>3) 「メディア統計分析」においては統計の基礎知識とスキルを学んだ上で、データを客観的に判断できる知識とスキルを身につけることを目的とする。</p> <p>4) 1) - 3) の科目群は、社会調査士資格にも対応できる内容とする。</p> <p>5) 上記科目については、共通科目(必修)である「情報活用演習Ⅰ・Ⅱ」、専門科目(必修)である「メディア・リテラシー論」とも連携しながら進めることで、学修内容の充実を図る。</p>	履行済	
	<p>○入学を希望する学生等が、本学科と既設の社会学部社会情報学科との違いを理解できるよう、十分に周知することが望ましい。</p>	<p>ご指摘に対応するため、本学のWebサイト、リーフレットにおいて、メディア学部メディア学科の「4年間の学びのステップ」「学びのポイント」「学べるテーマ」を掲載し、受験生が本学科の学びを理解できるようにした。これらの内容については、受験生に配布する入学案内パンフレットにも同様の内容を掲載し、オープンキャンパスにおいても説明している。</p>	履行済	
<p>設置計画履行状況調査時 (平成30年)</p>	<p>該当なし</p>			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<メディア学部 メディア学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
設置計画変更事項等について特記事項はない。	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

「目白大学新宿キャンパス各種委員会規程」並びに「目白大学さいたま岩槻キャンパス各種委員会規程」に基づき、新宿キャンパス（人間学部、社会学部、メディア学部、経営学部及び外国語学部）並びにさいたま岩槻キャンパス（保健医療学部及び看護学部）毎に副学長（総務担当）を委員長とする「FD実施委員会」を設置している。（添付資料5及び6）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年度はキャンパス合同で6月27日（水）に第1回FD実施委員会を実施し、8割以上の構成員が参加した。令和元年度も同様の開催を予定している。

c 委員会の審議事項等

<平成30年度実績>

- ・平成30年度全学FD研修会実施計画について
 - ・平成29年度「FD活動実施報告書」について
 - ・平成30年度「FD活動実施計画書」について
- 令和元年度も同様の内容を予定している。

② 実施状況

a 実施内容

- ・全学FD研修会を実施（計2回）
 - 「コンプライアンス教育・研究倫理教育」の説明会（第1回）
 - 「ハラスメントにならない指導の仕方」「シラバス・ルーブリック等についての説明会」（第2回）
- ・学科でのFD研修を実施（計3回）
 - 「新学部のカリキュラムの指導方法についてのディスカッション」（第1回）
 - 「メディア学部入学者の特徴分析、今後の指導方法についてのディスカッション」（第2回）
 - 「1年間を通じての学生の学修状況の情報共有、今後の指導方法についてのディスカッション」（第3回）

b 実施方法

全学教員を対象とした「全学FD研修会」を年2回実施するとともに、学科単位でのFD研修会を年1回以上開催し、実施報告書を教務部研究支援課に提出することとしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

<平成30年度実績>

- ・平成30年度第1回全学FD研修会（平成30年9月20日（木）及び補講10月10日（水）開催・メディア学部教員16名参加）
- ・平成30年度第2回全学FD研修会（平成30年12月1日（土）開催・メディア学部教員10名参加）
- ・平成30年度第1回メディア学部FD研修会（平成30年6月5日開催・教員18人参加）
- ・平成30年度第2回メディア学部FD研修会（平成30年7月3日開催・教員14人参加）
- ・平成30年度第3回メディア学部FD研修会（平成31年3月15日開催・教員12人参加）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各FD研修会で取り上げた内容、授業参観のフィードバック、及び下記授業評価アンケート結果に基づき、各教員は授業の改善や教育技術の向上に役立っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

「学生による授業評価」実施要領に基づき、期間・対象を定めて実施している。

※平成30年度まで実習等を除く授業において、2年間のうち最低1回は学期末に授業評価アンケートを実施することを原則としていた。令和元年度からは、全授業・毎年度実施することを原則として、実施要項を見直し中である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

集計結果は、教務部教務課より各教員及び当該学科長（学科長にあっては学部長、学部長にあっては学長）にフィードバックされる。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（4）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

（別紙のとおり。）

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

「平成30年度 自己点検・評価報告書」を令和元年7月末に公表予定

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定（令和元年7月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

令和4年度までに評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無（有・無）

b 公表有の場合の公表（予定）時期（令和2年2月末を予定）

（注）・今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

目白大学メディア学部は、メディア学を「現代社会、人間生活とメディアとの関わりを批判的・主体的にとらえ、来たるべきメディア社会を構想し、人間生活の向上に役立つ学」と定義し、理論的研究と社会的実践を架橋し両者を体系的に結びつける学問として位置付け、教育研究を行う目的で、2018年4月に設置された。学部の目的を達成するために、2019年4月末日までに以下の取り組みを行った。

1. 入学者の確保

学部 Web サイトやオープンキャンパス、大学案内冊子などを通して、メディア学部におけるメディア学の考え方、教学内容及びアドミッションポリシーの説明を行った。またシンポジウム等を開催し新学部の理念を広く周知させた結果、入学定員 140 名に対して志願者数 1,235 名と、昨年度を大幅に上回る志願者を集めることができた。さらに入学者数も 142 名を確保することができた。2019 年度以降も引き続き広報活動を充実させ、志願者・入学者の確保に取り組んでいく。

2. 新入生オリエンテーションおよび履修指導

A0 入試・推薦入試合格者に対しては、2 月にフォローアップセミナーを開催した。全員が集まり映像制作等の活動に取り組んでもらうことで、入学前の段階からメディア学部での学びのイメージを具体化させた。また入学前教育として e ラーニングを用いた国語・社会・数学等の課題に取り組んでもらうことで、基礎学力の強化を行った。

4 月の授業開始前には、学部生全員が参加必須となるオリエンテーションを学年別に実施した。新入生に向けたオリエンテーションでは、学部教育の基本的理念、人材育成目的、学部教育の特色などを説明した。加えて、学生便覧、シラバス、時間割等の資料を示し、卒業要件に必要な科目、履修方法、取得可能な資格などについて具体的な説明と質疑応答を行った。

新 2 年生向けのオリエンテーションでは、改めて学部教育の基本的理念や、履修科目を選択する際の注意点、資格取得に向けた計画的な履修の方法などについて確認した上で、2 年次より始まる社会連携プログラム、展開科目、学部

基幹科目のコア領域、方法論領域について、その関連性や履修方法、役割、特色などについて説明した。新2年生に対しては、4月以降も授業内で専門分野選択のための説明会を開催し、周知徹底を図る。

また、3年次以降も同様にオリエンテーションを実施し、学生の理解の深化を図る計画である。

さらに、新年度オリエンテーション以外に初年次教育科目内でも、2年次の社会連携プログラムの導入科目となる「メディア基礎演習 A・B」や展開科目における分野選択について説明をする機会を設け、各分野の科目内容、カリキュラムマップ、履修モデルなどの資料を示して具体的な説明をおこなった。

2年次にも社会連携プログラムや展開科目における分野選択について説明する機会や担任との面談を設け、順次的・体系的な履修となるように指導をおこなう。

3. 初年次教育

本学部は、2年次秋学期から中心的に学ぶ専門分野を1つ選択し、理論的・実践的な学びを深めていくカリキュラムとなっている。初年次はその前段階として、メディア学が対象とする研究領域を体系的に学修することで、全員が身につけておくべき学問的な視点や基本的な技術を修得するための期間として位置づけられている。

1年次で履修するべき科目として、具体的には学部基礎科目、学部基幹科目、共通科目の3つの科目群が配置されている。

①学部基礎科目

学部基礎科目は、メディア学の理論的・歴史的・技術的基礎を学ぶ1年次の必修科目である。

メディア学への導入科目として位置づけられる「メディア学概論」では、B. アンダーソン、M. マクルーハン、W. ベンヤミンなど、これからメディア学を学ぶ上で最も基本的かつ重要となる理論について講義するとともに、これらの理論が本学部の専門分野にどのように接続しているか、丁寧に説明を行った。また「メディアと社会」では、前述の「メディア学概論」とも連携しながら、社会的な視点でメディアを分析するための方法について講義を行った。

この他、学部基礎科目の「メディア情報概論」「メディアとモラル」では情報

技術（IT）の基礎的な仕組みを学ぶとともに、情報社会を生きる上で求められる倫理について講義を行った。さらに「メディア・リテラシー論」では、各媒体の構造と表現を分析しながら、メディアを批判的・主体的に読み解くための技法を身につけるための授業を展開した。

同じく学部基礎科目の「メディアと心理」「メディア社会と法」「メディア発達史」では、それぞれ心理・法制度・歴史という観点からメディアが果たしてきた役割について講義を行い、メディア学の背景にある制度や歴史について学ぶことでメディアを多角的に捉える視点を養った。

全科目が1年次の必修科目となっているこれらの学部基礎科目を通して、本学部の全学生に修得させる能力のうち特に基礎的な4項目（1. メディアを批判的・主体的に読み解く能力 2. 社会の諸問題を発見し、解決するために必要な知識を身につけ理解する能力 3. メディアの役割や機能について考え、理解する能力 4. メディアが社会や人間に与える影響について考え、理解する能力）を涵養した。

②学部基幹科目

学部基幹科目は、メディア学の軸となる3つの視点（社会・文化、産業・消費、表現・技術）を支える理論を学ぶコア領域と、現代社会や人間生活とメディアとの関わりを批判的に捉えるための方法を身につけ、また社会の中で実践する上で必要となる調査・企画・表現の技法を身につける方法論領域の2領域で構成された科目群である。

コア領域では、1年次の必修科目として「美術入門」「消費社会論」が配置されている。表現者の視点や思想について学び、主体的な審美眼と独創的な発想力の基礎を養うとともに、コンテンツ消費の背景にある社会文化的な要因を学ぶことで、コンテンツの作り手／受け手双方の視点から現代社会・人間生活とメディアの関係を分析できる能力を涵養した。

方法論領域では、「メディア技法入門」「造形入門」の2科目を1年次必修科目として展開し、メディアを用いてさまざまな表現を行うための基礎的な技法を身につけてもらった。さらに選択必修科目として「コンテンツ企画」「Web技法」を開講し、クリエイティブなアイデアを生み出す発想法や、Webの構造および表現技法について、実践的な演習授業を展開した。

③共通科目

1年次春学期の共通科目「フレッシュマンセミナー」では、学部の教育内容をより深く理解させることを踏まえ、グループワークを通してメディア学部に関連するテーマについて調査発表を行い、秋学期の共通科目「ベーシックセミナー」では、メディアや社会に関するテーマをもとに、ディスカッションやレポートをまとめるなど、情報を収集・整理・分析する方法やコミュニケーション力、プレゼンテーション技法など、学部において基盤となる能力を身に付けるよう授業を展開した。

また、4月の1年次を対象とした宿泊型集団研修「スタートアップセミナー」の学部別プログラムにおいては、クラス担任へのインタビューを行った上でのグループプレゼンテーションを課すことにより、教員の専門分野への関心を喚起させるとともに、クラス担任とのコミュニケーションを構築し、以降の学習や履修指導を含めた個別面談を行うための体制を整えることからはじめた。その後、「フレッシュマンセミナー」および「ベーシックセミナー」において段階的な履修指導を行うとともに、各学期で全学生がクラス担任と個別面談を行う時間を設け、自身の興味関心や将来の希望進路を踏まえて、各分野の学びと今後の学習の方向性を考えさせるよう指導した。2年次においても、全学生がクラス担任と個別面談を行う時間を設け、適切な履修指導ができる体制を維持していく。

4. 社会連携プログラム

設置1年目は、社会連携プログラム全体のコーディネートを行う専任教員が中心となり、今年度より開設される本プログラム実施のための準備作業を進めた。

具体的には、委員長であるコーディネーター教員の元、メディア実践演習運営委員会を7回開催し、演習クラス担当教員を交えて、想定されるプログラムの実現可能性、各分野で身につけるべき能力、学生の研究テーマや希望進路との関係などについて、議論を行い、慎重に検討を進めた。また、企業や地方公共団体、地域団体等実践の企図を説明し、現在確保している連携先に加えて、新規連携先の開拓を進めた。

また、学生の社会連携活動への動機付けを図るため、1年次学生を対象として担任教員との面談を2回行い、今後の研究の方向性を考えさせた。合わせて、1

年次学生の希望者を対象とした企業や団体との連携活動「チャレンジプロジェクト」を6件実施し、今年度の実施にあたり、実現可能性やアセスメントのトライアルを実施し、今後の方向性を取りまとめた。

社会連携プログラムの中核的科目の一つであるインターンシップについては、社会連携プログラム連絡会議の下部組織であるインターンシップ運営委員会が中心となって現行プログラム（社会学部メディア表現学科にて実施中）の見直しを行い、今後の方針を定めた。

以上の取り組みを総括すると、今年度の社会連携プログラム実施にあたり、十分な準備ができたものとする。

5. 施設・設備の整備状況

演習室及びメディアワークショップの改修・増設については、当初の計画通り進めた。メディアワークショップについては、演習室と同一のPCを配置し、学生が授業時以外の自主学習ができる環境を整備した。また、サーバーとネットワークの増設についても問題なく進められており、学生の学習環境において支障はない状況である。

これらのことから、設置の趣旨・目的については、2019年度5月時点としては当初の計画を概ね達成できていると言える。